

伝統文化こども教室・こども音頭取り育成事業

取り組みに至る背景・事業の目的

新野地区の高齢化と過疎化が進み、地域の伝統芸能を守る担い手が減少するなか、地元の子どもたちが新野の歴史・民話・祭りの由来などの学習や、民俗芸能を練習し祭りに参加することによって、郷土を誇りに思い愛する心を育てるとともに、地域の大人と共に民俗芸能を傳承しようという意識を高める。

地域の子どもが民俗芸能の練習、行事に参加し、地元の大人や高齢者等とも関わっていくことにより、活気ある地域づくりに貢献する。

事業内容

新野の子供たちが地域の歴史・民話・祭りの由来などの学習や民俗芸能を習い参加することにより郷土を愛する心を育て、民俗芸能を次の世代に伝える取り組みを行った。



【踊りの練習風景】

事業効果

地域の音頭取り（高齢者の方を含む）を講師に地区の小学4年生から中学3年生までの子ども73名が、「新野の盆踊り」の7種類の踊りを全て覚え、「盆踊り」には全員が参加し、中学生は櫓の上で盆唄を唄いながら踊り、踊りを進行していく責任を十分に果たすことができたとともに、祭りを構成する大切な役目があることを自覚して傳承していこうとする意識が高まった。小学生は、櫓に登る機会こそないが、踊り子として踊りの輪に参加し、盆踊りを十分に盛り上げることができた。

盆踊りを含め子ども教室で実施する事業は、伝統芸能の継承のみならず講師にあたる地域の高齢者にも活力を与え、世代間の交流を図る機会となった。

子ども教室に参加する子どもたちが盆踊り等の地元の祭り、行事に参加し関わることに、地域の住民からも絶大な感謝と称賛を受けることができた。



【本番の盆踊りでの成果を披露】

工夫・苦勞した点、課題、今後の取り組みなど

伝統文化の傳承は、次代を担う子どもたちに永続的に行うことが最も重要で、祭りの技能はもとより、継承しようという「心」を育てるように取り組む心構えが大切。

今後は、より多くの講習の機会が持てるよう、小中学校と連携し、郷土芸能の傳承と後継者の育成を図りたい。また、ふるさとを愛し、誇りに思う「心」を育てていきたい。

【選定のポイント】

地域の子供たちが古くから傳承されている祭りの学習・実践を行う機会を提供するとともに、地域の高齢者が講師となることによる世代間交流が促進されたことが評価できる。

団体名	新野高原盆踊りの会（阿南町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	阿南町役場新野出張所 熊谷 寛	事業費	439,055円
	電話 0260-24-2001	支援金額	196,000円